



みはるの丘浮島2階東棟

「オランダの介護保険制度の変化から 日本の制度改革が見える 〜再びボランティアを組織化しよう〜」

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

昨年の『月刊福祉』12月号に掲載されていた松岡洋子さんの「オランダの高齢者福祉事情」という論文を読ませていただいた。松岡さんの論文によると、オランダは1968年に世界で最初に介護保険制度を導入したが、2000年には利用者が15倍、給付費が20倍となり、財政的にパンク状態となったので2007年に家事援助を自治体の裁量に委ねる「社会支援法」に移行し、更に2015年にはデイサービス等の在宅介護サービスも「社会支援法」の対象へ移行させている。介護保険制度がカバーしてきた在宅・施設介護サービスのうち、在宅での介護サービスの大部分が社会支援法に移管されて自治体の管轄下に入り、介護保険は重度者の施設ケアのみをカバーすることとなった。社会支援法に基づく市の査定で、「デイアクティビティ」などのサービスを利用できなくなった高齢者は、ボランティアが運営する「カフェ・モーニング」などの利用に移行して行った。これは日本では総合事業におけるボランティアが運営する「通いの場」（居場所・サロン）への移行と重なる。

日本でも平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始された。これは介護予防事業対象者や要支援1・2の軽度高齢者の一部は、住民主体の支え合いによって支援していく方向を示している。だが、総合事業の訪問型や通所型サービスで住民主体による支援サービスBを実施できている市町は一部にとどまっており、オランダの様に多くのボランティア組織が形成されていないのが現状である。私がかつて、平成元年に愛鷹地区社協の設立に関わった後、平成7年に愛鷹地区の全ての住民を対象にボランティア参加のアンケート調査を実施し、翌年14団体からなるボランティア部会が結成された。例えば、運転支援の「人力車の会」、軽作業支援の「こまめさん」、地域の老人から障害者をサポートする在宅介護支援「手と手」、サロン活動のお手伝いをする「気楽に助っ人」、月1回一人暮らし老人宅への配食弁当作りの「料理グループ」など、ボランティアに登録された愛鷹地区の住民は約200人に及んでいた。いま、日本では各市町で結成されている地区社協などを通じて、再びボランティアを組織化していくことが喫緊の課題と考える。オランダの福祉国家から参加型社会への移行から、日本の制度改革の更なる先が見えて来るように思える。春風会が昨年実施した介護職員初任者研修事業も、地域の介護力の向上と地域のボランティアを育成するための一助となればと考えた。少子高齢化の中で地域福祉の再構築、自助・公助の再拡大が何よりも大切であると思えた。

令和5年度 社会福祉法人春風会 事業経営基本方針

- ① 社会福祉法人のブランド力と地域貢献度の向上
- ② 地域ニーズに応える新たな事業への取り組み
- ③ 職員の人材確保と育成
- ④ 児童虐待防止・高齢者虐待防止への取り組みについて
- ⑤ 施設での看取り介護の推進と認知症介護
- ⑥ 高尾園や障害者施設等での農福連携等の新規事業や高齢者の在宅支援事業
- ⑦ 施設機能の効率化や生産性の向上と経費削減への本格的な取り組み



令和5年1月23日に春風会の役職職員合同研修会は3年連続となるオンライン形式で開催され、石川理事長より令和5年度の法人の基本方針について報告がありました。

新型コロナウイルス感染拡大の阻止に向けて

新型コロナウイルスの感染拡大は、令和5年に入っても全く収束に向かう気配がなく、オミクロン株の新たな変異株の出現による感染爆発が相変わらず続いている。特に高齢者介護施設などで多くのクラスターが発生しているが、医療現場の逼迫により重症化しても病院への入院もできず、施設内療養や自宅での療養を余儀なくされている。

法人の各施設でも、これまでの3年間では入居者や職員、家族に新型コロナウイルスの感染者が出現も、ゾーニングなどの感染予防対策を確実に実施することにより、施設でのクラスターの発生は阻止できていた。しかし、今回の第8波では、これまでの感染症対策では感染拡大を抑えることはできませんでした。それ

は、感染力のあまりの速さに対応できず、法人内の各施設でクラスターが発生しまっている状況でした。令和5年度は、これらの経験を活かして法人としては医療面を含めての新型コロナウイルス感染症対策を見直し強化し、感染拡大を確実に阻止できる体制づくりに更に取り組んでいかなければならないと考えています。職員自身とその家族、利用されているお年寄りや障害児者・園児の皆様の大切な命と生活を守る為に、引き続き感染予防を徹底してまいります。

令和5年度における春風会事業経営基本方針は、以下の七項目を重点項目として取り組んで参ります。

社会福祉法人のブランド力と地域貢献度の向上

令和5年度、春風会は法人創設48年目を迎え、約半世紀近い歴史と伝統を持つ法人になります。今後とも春風会の社会的信頼度・信用度、ブランド力を更に高めて、地域社会に貢献する

法人を目指して頑張る決意です。法人が半世紀近くで築き上げてきたブランド力は、多くの利用者や家族・地域住民と法人の各事業所を強く結ぶツールであると言え、私たちは、決して歴史と伝統に胡坐をかいて、おごったり、油断をしたり、怠慢、安易な妥協、マンネリ化してはならないと考えています。常に周りの変化に先行して自己変革を遂げていかなければ、あつという間に衰退してしまいます。常に変化できる状況というものを弾力的にマンネリ化しないで考えていきます。

地域のニーズに応えるため新たな事業展開への取り組み

今年度は、24時間の在宅医療・介護の体制確立のために、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と訪問看護事業を4月から開始する。この二つの事業を法人としても確実に軌道に乗せなければなりません。また、昨年に引き続き令和5年度も、地域介護力の向上と介護人材の養成・確保のために、介護職員初

任者研修事業と介護職員実務者研修事業の二つの事業は、継続事業として実施していきます。

高齢者福祉・介護の分野では、特養に入所できない要介護1・2の高齢者をはじめ、一人暮らし老人や高齢者世帯の事業対象者、要支援1・2の高齢者を対象とするサービスタワー・住宅の整備、地域福祉センター・低額・無料診療所を整備して、医療と福祉の総合化、在宅医療・介護の連携のもと地域包括ケアシステムの実現を検討していきます。

3 職員の人材確保と育成

介護人材の確保については、EPA介護福祉士候補生やミャンマーの技能実習生の受け入れを今年度も継続して実施します。また、インターンシップ制度による学生の受け入れについても引き続き検討をしていきたいと思っております。外国人介護人材の増加に伴い、外国人人材の育成・教育マニュアルの作成と各施設に育成担当職員を配置して、人材育成に努めていきたいと考えています。

今年度は、特に職員の離職防止のための対策と職員のメンタルヘルス対策を法人として積極的に実施し、定着率の更なる向上と離職防止を最優先に取り組んでいきます。

4 児童虐待・高齢者虐待防止への取り組みについて

昨年は保育園での児童虐待事件や精神科病院での患者への暴力事件など、県東部で大変残念な事件が起き全国的に報道されました。今年度は、法人・各施設での職員の接遇マナー研修の毎月の実施や高齢者等虐待防止研修を定期的開催し、モラル・倫理観の教育に力を入れて行きたいと思っております。

5 施設での看取り介護の推進と認知症介護の取り組み

法人が今まで実践してきた看取り介護をマニュアル化・テキスト化して、信頼される看取り介護を継続していきたいと思っております。

6 障害者施設での農福連携等の新規事業や高齢者の在宅支援事業などについて

障害者施設では、これまでの福祉の枠にとらわれずに、新たな農業・福祉連携事業として、未利用園芸施設を借用しての障害者・高齢者の農業従事と農産物の直売所や軽食提供施設の開設などを検討していきます。

高齢者の在宅支援事業では機能訓練に特化したデイサービス、また、デジタル技術を活用したデイトレ・ICTリハビリの考えも取り入れ、デイサービスのメニューの多様化を図りたい。特に、個人が選択し成果が評価できるメニューや男性に特化したデイサービスなど、先を見据えた事業展開を検討していく。その他、介護予防活動の見える化のソフト導入や法人独自の入浴サービスの復活、買い物外出・通院等の移送・移動支援など実施できることから進めていきたいと思っております。

7 施設機能の効率化や生産性の向上と経費削減への取り組み

令和4年度からの電気料金をはじめとした諸物価高騰による事業費と事務費の上昇により社会福祉法人の経営がかなり圧迫され、収支差額も極めて厳しいものとなると考えられます。今後、人件費、事務費、事業費の徹底的な見直しや生産性の向上への取り組みにより経費の削減、無駄を省く経営、健全な経営を推進する。その中で、介護の仕事の分業化に向け、介護の自身の見直しとICTをどの様に導入し仕事の効率化を図って行くか検討を進めていきたいと思っております。



令和5年度は、新型コロナ感染症予防を最優先し、利用者・入居者の生活と命を守りながら、職員一人ひとりのモラル・技術向上、サービスの創意工夫を図り、職員に笑顔が溢れ、明るく働きやすい職場環境、職員に活気のある介護・福祉現場の実現と、利用者・家族・地域から信頼される施設作りに向けて、全職員で取り組んでいきます。



修善寺 デイサービス

原 葉子 様

笑顔の素敵な葉子さん。昨年4月、通所リハビリからの卒業を機に、デイサービスの仲間入りをされました。ご自宅では、家事全般をこなし、できることは自分で頑張っています。そんな葉子さんのデイサービスでの楽しみのひとつが、孫の祐樹介護士の活躍をそばで見守ること。入浴の際は、孫に背中を流してもらう葉子さんの嬉しそうな表情が印象的です。



ふれあい デイサービス

関野 勝男 様

ふれあいデイサービスを令和2年の7月からご利用されている関野さんです。利用当初は圧迫骨折後で、座っていることさえ厳しく乗車時も背もたれを倒した状態でした。デイ利用時もベッド上で過ごされていました。2年たった今ではとても活発になられ、歩行練習にも積極的に参加される等ご本人も努力されています。病院では回復は難しいだろうと言われていたそうで、見違えるほどお元気になりふれあいスタッフの良い励みになっています。

『お元気な皆さん』をご紹介します! ▲▲



天城 デイサービス

杉山 たつ江 様

天城デイサービスからはたつ江さんをご紹介します。たつ江さんは天城デイサービス開所時から利用されており、毎回お元気に過ごされています。手先が器用で様々な手芸作品を作成し職員を驚かせてくれました。毎回、歩行訓練を職員と共に行い笑顔で運動も頑張ってください。長生きの秘訣は?と問うと「わからないよ!こっちが教えてもらいたい。普通にしてるだけ。」とおどけて下されます。職員の事も全員名前前で呼んで頂き職員一同元気をもらっています。



プレーゲおおひと デイサービス

堤 敏子 様

今回ご紹介させて頂くのは敏子さんです。お年はなんと101歳。頭の回転も速く職員の声かけにジョークを交えて返されることがあり、ユーモアがある方です。とても社交的でデイサービスをご利用される前は水晶苑(老人憩の家)にも通われていました。息子さんが仕事の関係のためアメリカで生活をされていた時はご主人と2人で渡米されしばらく過ごされたと話されていました。デイサービスでは貼り絵などの作業も積極的に参加されています。堤さんのバイタリティーあふれる姿にいつも感心させられています。



ぬくもりの里 デイサービス

古屋 壽男 様

ぬくもりの里開設後、宿直をされていた古屋壽男さんは御年 98 歳になりました。大仁町花の会会長後、現在も顧問として尽力されています。菊花展で数多くの賞を授与され大仁東小にも「菊づくり教室に講師として子供達の育成に愛情を注がれてこられました。

愛情深い古屋さんは現在、奥様の介護の傍ら、梅や野菜作りを楽しんでおられます。週に一度奥様と一緒にデイに来られ、ぬくもりの里の歴史を語って頂ける貴重な存在です。寄贈して頂いた紫つつじのつぼみが膨らみ始めました。満開の花の下で色んな思い出を皆で語り合う予定です。



デイサービスセンター みはるの丘

杉本 益枝 様

益枝さんは、今年の 1 月に 100 歳のお誕生日を迎えられました。平成 27 年 5 月よりご利用され八年が経とうとしています。

益枝さんは、若い頃から編み物が得意でとても手先が器用です。レクの中で毛糸のたわしを編んで下さいました。習字も上手で、達筆な字を書かれています。書道展に作品を出展される時は、自分の納得がいくまで一生懸命書いています。また、益枝さんの元気と笑顔が周囲を明るくしてくれています。これからも元気にデイサービスへ通っていただければと思います。

▲ ▲ ▲ デイサービスをご利用されている



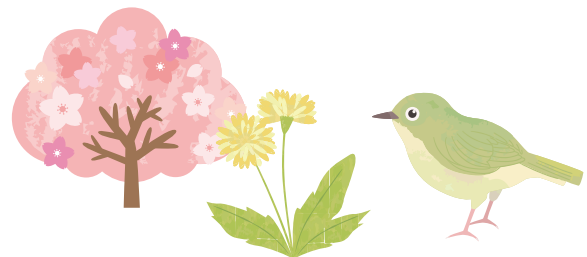
あしたかホーム デイサービス

H・T 様(ご主人様) Y・T 様(奥様)

あしたかホームデイサービスセンターからのご紹介は、T さんご夫妻です。ご夫婦共に恥ずかしとのことで、匿名のイニシャルでのご紹介です。

T さんご夫妻は、平成 28 年よりご主人・奥様共にあしたかホームデイサービスをご利用くださっています。ご主人 H さんは、ノルディックウォークや体操、書道に積極的に参加され、また、タオルたたみなどスタッフのお手伝いもして下さる紳士です。漢字検定も 4 年前より毎年挑戦され、今年度は 5 級に合格されました。

奥様の Y さんは、穏やかでいつもニコニコと楽しそうに活動に参加されています。スタッフにもいつも優しく声をかけてくださっています。ご主人と共に、漢字検定にも挑戦されているがんばり屋さんです。



新たな仲間たちを迎えて

令和5年度 社会福祉法人春風会 新規学卒採用予定者入社内定式

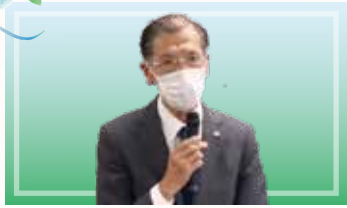


春風会では、令和4年12月10日に令和5年4月1日付け新規採用予定者の入社内定式を行いました。今年度の新規学卒の採用内定者は8名です。

式では石川理事長からの講和が行われた後、各施設長による施設アピールや先輩職員からのメッセージも寄せられ、内定者からは全員の自己紹介が行われました。内定式は始終和やかな雰囲気の中は進められ、内定者の皆さんは開式時は不安そうな表情でしたが、閉会時には、同期の仲間たちとの4月からの勤務に胸を膨らませていました。

新規採用された皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長 石川三義



皆さんは、来年4月より春風会の法人職員として入職されます。春風会の職員として社会福祉事業に従事することに誇りと責任と信念を持って取り組んでいただきたい。私たちの医療・介護・保育の仕事は人の生命と生活を守る本当に大事な仕事、エッセンシャルワークです。今は人生100年時代と言われていきます。人間にとって人生最期の時期を本当に幸せで誇りのある人生であったと思えるかどうかは、その方を支える介護する方の人間力に掛かっていると思っています。最期を見送るのは医師ですが、施設での日常の全てをお世話するのは施設で働く介護士・看護師・調理職員となり、それらのスタッフが揃って初めて、良い介護、良い看取り支援が出来る

と思います。その方の終末期において私たちの果たす役割は大変大きいものと思っており、それは私たち介護スタッフ一人ひとりの力に掛かっていると思います。また、保育についても同じことが言えます。保育士一人ひとりの力に子どもたちの生活、命が掛かっています。

医療・介護・保育の仕事は、人の命をお預かりして人の命を支える、守る仕事です。誇り高く、人に誇れる大変素晴らしい仕事であると私は思っております。ぜひ皆さんも誇りと責任と勇気を持って、これから高齢者福祉・障害者福祉・保育の仕事を専念していただきたいと思います。皆さんのこれからの活躍を期待しております。

2022年度 EPA介護福祉士 候補生入職



2022年度募集のフィリピン人EPA介護福祉士候補生のロイさんが1月11日に春風会職員として入職しました。配属先は、プレーゲあしたかの小規模特養となり、同施設では初めてのEPA介護福祉士候補生となります。3年後の介護福祉士国家試験の合格に向けて介護技術と日本語学習のスキルアップを目指していきます。

現在、春風会では11名のEPA介護福祉士候補生が就労しています。うち4名は今年度の国家試験を受験し、3月の結果発表を待っている状況です。また、来年度には新たに5名のEPA介護福祉士候補生が入職する予定です。



笑顔がすてきな なかまたち

春風会では令和4年4月25日にベトナムのドンア大学看護学生の2名を1年間インターシップ生として迎えました。片言の日本語でしたが、素敵笑顔に利用者も職員も一目惚れ。あっという間にそれぞれの部署に馴染みました。

7月25日にはミャンマーからの技能実習生4名が仲間入りしています。技能実習生は1年間現地で介護と日本語の勉強をした後、6月22日に日本に到着。さらに1か月の研修を得てから入職しました。3年間の在留ですが、日本で楽しく介護の勉強ができるようにサポートしていきたいと思っています。



Vietnam



Myanmar



氏名：ファム ティ ジェム トウイ
愛称：トウイさん
出身国：ベトナム
＜インターンシップ生＞
配属先：伊豆中央ケアセンター
短期入所
趣味など 趣味は旅行です。いろいろな地方を観光したいです！



氏名：フィン ティ トウエット ガー
愛称：ガーさん
出身国：ベトナム
＜インターンシップ生＞
配属先：伊豆中央ケアセンター
通所介護
趣味など 趣味は音楽とショッピング！利用者さんのお世話やお手伝いをするのが楽しいです。



氏名：メイ トウ カイン
愛称：メイさん
出身国：ミャンマー
＜技能実習生＞
配属先：プレーグあしたか
小規模特養
趣味など 料理を作ることが好きです。いまはミャンマー料理が主ですが日本食や洋食も勉強したいです！



氏名：ニン イ ニェイン
愛称：ニェインさん
出身国：ミャンマー
＜技能実習生＞
配属先：伊豆中央ケアセンター
入居ひだまり
趣味など 好きなことは料理を作ること。



氏名：ルイン マー アウン
愛称：ルイン マーさん
出身国：ミャンマー
＜技能実習生＞
配属先：伊豆中央ケアセンター
入居すみれ
趣味など 私の趣味は旅行です。そしておいしいものを食べるのが大好きです！



氏名：ミャツ ケイ ティ ウー
愛称：ケイさん
出身国：ミャンマー
＜技能実習生＞
配属先：ニューあしたかホーム
3階北
趣味など 音楽を聴くことが好きです。日本の音楽はあまり知らないので色々な音楽を聴いてみたいです！

コロナに負けるな！
盛り上がり 沢田地区
～高尾園と沢田小学校との交流～



沼津市立高尾園と沢田小学校は、毎年、同じ地域で暮らす住民として相互扶助を目指し交流を続けています。小学生にとっては福祉や社会学習のきっかけとなり、子供たちの笑顔やその関わりが入所者の日常生活を豊かにし、日々の活力に繋がっています。近年はコロナ禍の影響によりリモート交流が中心となつていますが、今年度実践した活動を紹介します。

【九月】 小学校ではコミュニケーション学習で、児童らが事前にインターネットで救護施設について検索し、リモートで高尾園スタッフへ職業インタビューがありました。

【十月】 高尾園では入所者が、日常の風景や日課のクラブ活動の様子を伝えるビデオテープを制作し、小学校で児童らが視聴しました。

【十一月】 小学校より運動会やコロナ禍の給食（黙食）・パソコンを使用した授業の様子を収めたビデオテープが送られ、入所者全員で視聴しました。



今年も門松を制作しました

【十二月】 材料集めから制作まで、入所者が協力して仕上げた門松を小学校の門に設置、児童が季節を感じるプレゼントをしました。小学校からは児童がサラダ油で作ったキャンドル、学校の様子を写した写真を散りばめた壁掛けのお礼がありました。

今後お互いに理解が深まる充実した交流が続き、福祉（幸福）の輪が広がる活動にしていきたいと思えます。



暖かなともしびに包まれたプレゼント

「心もひとつに」
～トーンチャイムの演奏も届けます～



プラムカフェに透きとおる音色が響きわたる。一瞬のすきも見逃さないようにと、スマホで動画に収める保護者の姿。これは、プラムひまわり会でのトーンチャイムのお披露目のワンシーン。旧保護者会より寄贈されたトーンチャイムの音色は、一人ひとりの心に溶け込んでいきます。初めての演奏曲目は、嵐の「ふるさと」。

「トーンチャイム」は、誰でも演奏できる普及型ハンドベルとして、鈴木楽器製作所から生まれた楽器です。美しく、やわらかな音色を奏でます。

今回、ほとんどの利用者が、この楽器に触れるのは初めてのこと。緊張のあまり音が出ない利用者も・・・そこで、前奏は、

トーンチャイムで演奏し、その後、利用者皆で歌うというオリジナルバージョン。トーンチャイムの演奏はもとより、歌詞も大切に歌うよう練習を重ねてきました。

任された自らのパートに責任をもち、心ひとつに演奏する利用者の姿に、障害があっても、力強くまた一生懸命生きる姿が重なります。こんな光景に、職員にも熱い想いがこみあげてきます。

トーンチャイムのやわらかな音色は、これからも多くの人の心を癒し、感動を与えていくことと思えます。私たちは、発表の場が増えていくことを願ってやみません。

みなさまのお声をお待ちしております。



もくせい苑

もくせい苑の『Fe画伯』と石井鉄兵さんのイラストが巷で有名になってきました！

鉄兵さんは、特別支援学校で農業を学んできた事もあり、屋外の作業は得意ですがデスクワークはちよつと苦手でした。そんなある日、何気なく職員が渡したペンと紙でとつてもかわいいうイラストを描き上げました。そこからぐんぐん腕を上げ、今では鉄兵さんのイラストをプリントしたグッズは、もくせい苑の主力商品となっています。

Fe画伯がイラストを描くスタイルは、左手に黒のハイマツキーマジックペンを持ち（持ち方も独特！）細字の方で枠線を描き、カラーのマッキーでキュッキュッと塗りつぶします。塗

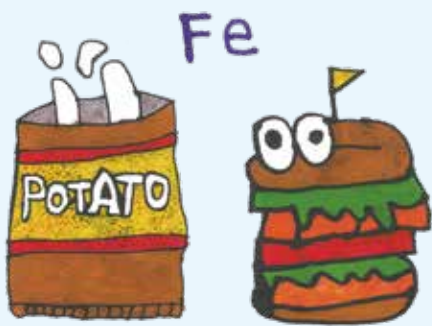


もくせい苑発!
Feブランド製品が大人気!

りつぶした部分の色むらは下に敷いているザラザラしたアクリル板によって味のある仕上がりと なっています。そして、納得いくまで何枚も何枚も描き、最後の一枚にFeのサインを入れて完成です。

『Fe画伯』というペンネームの由来は鉄の元素記号で、今は天国にいるお母様が付けて下さいました。きつと鉄兵さんの活躍を喜んでくれていると思えます。

鉄兵さんの人柄が出ている、ほんわか癒されるイラスト入りグッズは、ネット販売もしておりますので、是非のぞいてみて下さい。



あおばの家

長引くコロナ禍の影響により、あおばの家で計画・実施していた遠足や、親子食事会といった外出レクは3年前から一切できなくなっていました。そこで施設の中で楽しめるイベントは何かないかと職員がアイデアを出し合い、せめてお祭りの雰囲気味わってもらうと昨年より秋祭りを開催しています。11月25日、運転手を含めた全職員が焼きそば・フランクフルト・綿菓子、かき氷・ヨーヨー釣り・金魚すくい・的あてゲーム等数多くの出店を、用意し利用者を迎えました。口いっばいに焼きそばをほおばり、たくさんのヨーヨーやお菓子を両手いっばいに持って嬉しそうに出店を回る姿は、職員も胸が躍る光景とな



あおばの家発!
秋祭り...お祭りがやってきた!

り自然とともに笑顔になってきました。

コロナ禍の中、感染しない事・施設に入れない事・感染拡大を起さない事を考え、防止策を第一にサービス提供をしてきました。しかし、あおばの家に通う利用者はそのような職員を見て、「今までと違うな...」「なんかピリピリしているな。」と声に出さなくても感じていたと思います。

今回の試みは感染防止策を徹底して行っているため、まだまだ自分たちが求めるイベントには届きませんが、これからも職員同士アイデアを出し合い、コロナ禍であっても利用者の元気な声と笑顔あふれるイベントを計画していくあおばの家を目指していきたいです。

「今日は何するの?」

「楽しみだな!」

「おいしかった!」

「今日も楽しかった!」

利用者の声が聞こえてきます。





みんなの笑顔に会えました

北狩野ケアセンター 子ども食堂

北狩野ケアセンター子ども食堂は、令和元年十月に地域住民との交流推進を目的に伊豆市で初めてオープンしました。当初は毎月第二、四土曜日に開催していましたが、コロナ禍の影響で現在は中止しています。近隣の団体や企業、商店から子ども食堂用に米、野菜、調味料など多く寄せられた食材を活用して十二月三日に同施設の調理員による手作りお弁当〇〇食と、施設で管理する畑で収穫したサツマイモを焼き芋にして配布しました。

この親子連れの方も多く来ていただきました。お弁当配布は1年ぶりの開催であり、久しぶりに子どもたちの笑顔が見ることができ楽しい一日でした。コロナ禍が収束し本格的に子ども食堂が再開したときには、子どもたちが利用者や職員との交流で福祉の仕事に興味を持っていただければ嬉しいです。たくさんの方の協力や支援で今回のお弁当配布と変わり種自転車試乗会を行うことができました。



交通安全教室から見える 子どもたちの成長の軌跡

なかいず認定こども園

普段のこども園では、子どもたちが主体的に考えた活動を楽しんで行っています。しかし、「命を守る」活動として、避難訓練や交通安全教室、食育教室などは、保育者が意図的に計画して取り組みます。先日、令和4年度3回目の交通安全教室が開かれました。それぞれの保育室でイラストやペープサートなどで学んだ後、実際に外に出て練習をしました。

4歳児は道路の横断を練習しました。指さし確認も出来て車が来ないかをしっかりと見ています。3歳児の頃から数えて、6回目の教室ともなると、やり方がきちんとなつて自信も付いてきていますね。



3歳児は、始めて園周辺の公道へ出て歩いたり信号のない道路を渡ったりしました。交通指導員さんの助けを借りながら数人ずつで、道路を渡る練習をしますが、手のあげ方がまだ、自信なさげです。

5歳児は交通量の比較的多い県道で、押しボタン式の信号機を操作して車を止めて道路を渡る練習をしました。すぐ側で交通指導員さんや保育士が見守っていましたが、実に堂々と横断しています。これなら4月から小学生になっても大丈夫そうです。



身を守る行動も一人ひとりが十分に考えて判断することで、より充実したものになります。





令和4年1月、伊豆の国市のひつと居宅介護支援センター倉田氏より相談がありました。

「若い頃に音楽をやっていた人は多く、認知症になっても音楽は楽しめる。そんな機会を作りたい。協力してもらえないか。」と。

居宅内で相談し、個人としてはもちろん、ぬくもりの里居宅介護支援事業所としても「地域づくり」として協力することに職員全員の賛同をもらいました。どのような形にしたら良いのか検討を重ね、主催は倉田氏・事務局をぬくもり居宅が担う事になりました。

4月、伊豆保健医療センター主催での「医療と福祉の多職種勉強会」にて活動報告とメンバー募集を呼びかけたところ、いろいろな職種の方から問い合わせや参加希望がありました。

翌月には協力者として手を上げてくれた正蓮寺（伊豆の国市北江間・幼稚園保育園併設）で「作戦会議」を実施。コロナ禍であるため集合しての練習はできるだろうか？という事が一番の課題でした。練習すること自体が楽しめる活動になるため、集合できる場所を探そう！参加は自由にして気軽に見てもらおう！正蓮寺で発表会をして園児や地域の人にも見てもらおう！と前向きな意見が飛び交いました。

9月、第1回練習日。当日は5名の認知症参加者と6名のスタッフが集まりました。参加者の一人が「カイマナヒラ」というハワイアン楽曲が好きで、繰り返しウクレレで演奏。それに合わせてみんなが楽器や歌を楽しみました。



そこで、昔フラダンスをやっていたという利用者さんを思い出し、誘ってみるとOKの返事。他事業所のフラ経験者ケアマネジャーも誘うと、快諾いただき、フラチームができました。

プレーゲおおひと深沢施設長からの提案で、11月3日「介護の日イベント」で発表することになりました。当日は快晴の中、気持ちよくパフォーマンスでき、参加者スタッフともに「楽しかった」という声が多く聞かれました。

今回は3月、大仁まごころ市場で開催される音楽イベントが発表の場に決まり、それに伴い2月にプレーゲおおひと地域交流室にて練習をおこないます。

参加者もスタッフも見学者も、みんなが楽しめる地域資源になる事を願い、これからも活動を続けていきたいと思えます。この記事を読んでいる皆さんも、興味があったら是非ご参加ください！一緒に音楽を楽しみましょう！



まちがえてもいい音楽団
メンバー（団員）募集中！
 認知症の方が音楽を通して楽しみを見つけ笑顔になれる音楽団です

対象：認知症の方、そのご家族
 楽器等：簡単な打楽器はあります
 その他の楽器はご持参ください
 主催：倉田一秀
 （ひつと居宅介護支援センター）

次回出演：第5回まごころライブ
 日時：令和5年3月11日（土）10時～
 場所：まごころ市場 駐車場
 （伊豆の国市田原野440-4）
 参加費：無料

QRコード
 YouTube公開中！

見学のみの飛び込み参加もOK!!
 お申込み・お問い合わせは事務局まで♪
 事務局：ぬくもりの里居宅介護支援事業所
 （プレーゲおおひと内）
 電話：0558-76-6744
 Email: nukumoriyotaku@izu.tnc.ne.jp

沼津虹の家

沼津ロータリークラブから イスの寄贈

沼津虹の家では令和4年12月9日に沼津ロータリークラブ様より椅子を寄贈していただきました。

事業所で使用していた椅子の老朽化が著しく、利用者さんの安全面への配慮と椅子を用いても日常生活動作の向上に役立てて欲しいとのご厚意により、今回は15脚の椅子をいただきました。ありがとうございました。



デイサービスセンター みはるの丘

ふれあい書道展への デイサービス利用者作品の展覧

デイサービスセンターみはるの丘では、利用者の活動の一環として、書道を行っています。コロナ禍前は近所の方がボランティアで講師に来て下さっていましたが、コロナ禍になってからはボランティアさんの来所も難しく、現在は職員が主体となって行なっています。

書道を行なう中で、何か目標をもってできるものはないかと思っていた時に、ふれあい書道展を知り、平成29年より年2回(6月・1月)出展しています。毎回5～6名の利用者さんが参加しています。出展すると作品が審査され、賞状が届きます。作品を出された利用者さんにとっては、毎回審査結果が楽しみであり、日々の励み原動力となっています。



●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297

●特別養護老人ホームめぐりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755

●原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511

●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

●天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723

●ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385

●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
〒410-0302 沼津市東権路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーグあおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

●障害サービス グループホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880

●あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

●プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

●なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

●はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334